

「きれい」という言葉があります。あるとき、三歳になる私の孫が「きれくない」と言いました。何故かというと、「きれい」を「美しい」と同じように、形容詞だと思っていたからです。

「美しい」の否定形は「美しくない」となります。ですから「きれい」の「い」を「く」に変化させてしまったんですが、「きれい」は変化する言葉ではありません。

しかし、この二つが同じような性質を表す言葉であることは事実です。このため子どもの頭では「きれくない」という表現になってしまったのです。

幼児でも、ただ単に言葉を聞いて覚えているだけではなく、変化の法則まで把握して、語尾の変化をさせているのです。幼児のこういう能力はすごいと思います。理屈ではなく、現実言葉に接して体得するものであって、子どもの頭には、こういう法則をつくり出す働きをする何かがあると思わざるを得ません。

幼児にこんな能力があるということを、大人たちは知らないだけです。幼児には文字の学習なんて無理だと思って、泥遊びみたいなことだけをさせていますが、本当は文字を覚える能力はすでに備わっているの

です。文字を、漢字を覚えるにも十分だということを理解しておいて欲しいものです。

ポイント:字形が複雑だということは、記憶の手掛かりが多いという利点があります。むずかしい字だから覚えにくいということではなくて、複雑な字ほど一回見ただけで特徴が何となくつかめて、覚えやすいのです。